



2026年2月15～16日に釧路水産試験場試験調査船「北辰丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分の観測結果をお知らせします。 QRコードからもアクセスできます→

- ・ 表層から親潮系水が流入している
- ・ 水温は湾外表層で平年より低く、湾奥の中層以深で高い

【水温の鉛直分布】

噴火湾内の水温はおおむね海面から海底まで3～4℃台（平年並），湾奥の水深40m以深では4～5℃台（平年+1℃），湾外表層では2℃前後（平年-1.5℃）となっています。

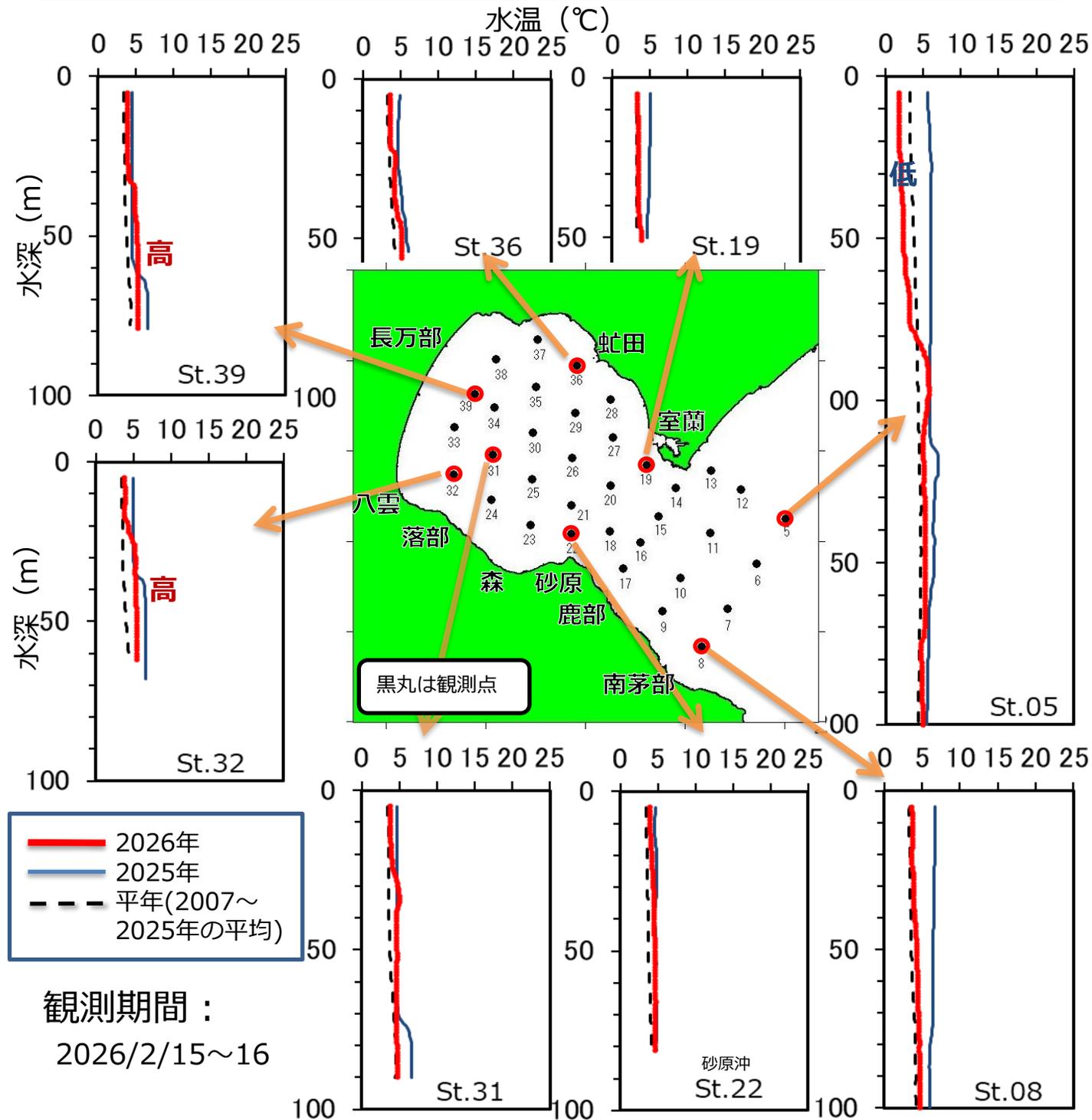


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温、塩分、クロロフィルaの水平分布】

■水温・塩分

2026年の深度20mの水温は1~4℃台（図2上），塩分は32.8~33.6の範囲でした（図2中）。低温で低塩分な**親潮系水**（水温3℃以下，塩分33.3以下）は2024・2025年の2月には見られませんが，**2026年2月は胆振側から湾内に流入し始めています。**

■クロロフィルa※

深度20mにおけるクロロフィルaは湾内全域で3 $\mu\text{g/L}$ 以上，湾奥では最大7 $\mu\text{g/L}$ となっていました（図2下）。調査海域全体において，2024年の同時期の値を上回り，2025年に近い値となっています。

※クロロフィルaは植物プランクトンに含まれる葉緑素で，養殖ホタテガイのエサの指標となります。

2024年2月16~18日

2025年2月16~20日

2026年2月15~16日

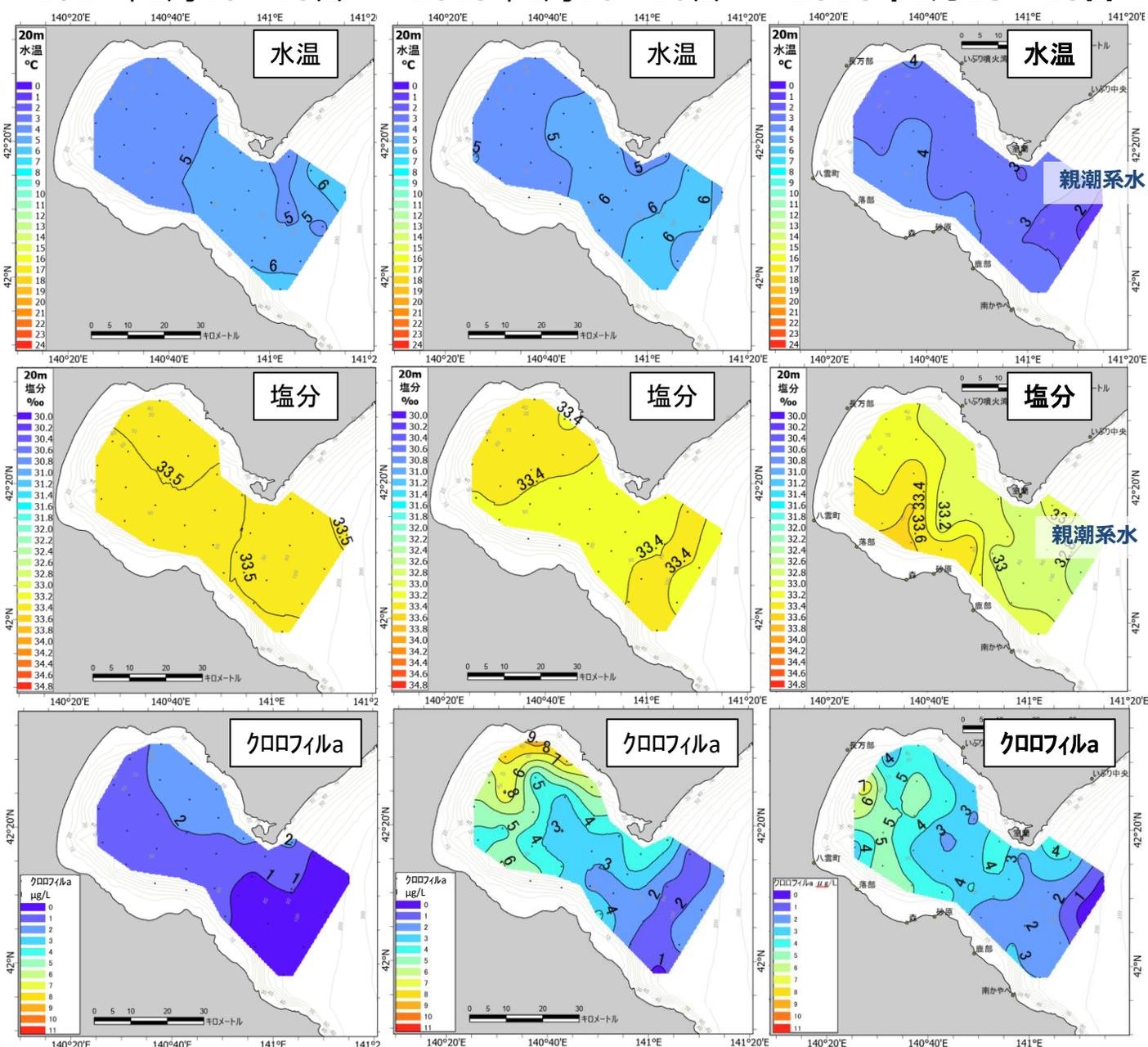
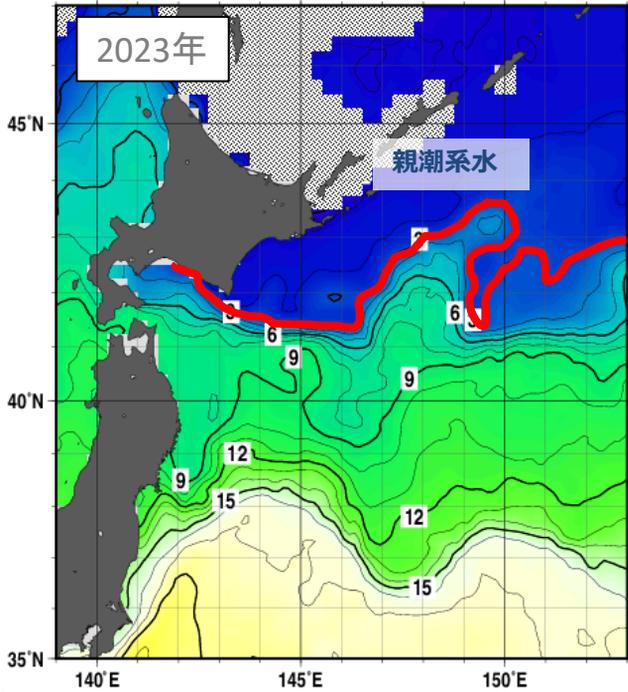


図2 深度20mにおける水温（上）と塩分（中）およびクロロフィルa（下）の水平分布（左：2024年2月，中：2025年2月，右：2026年2月）

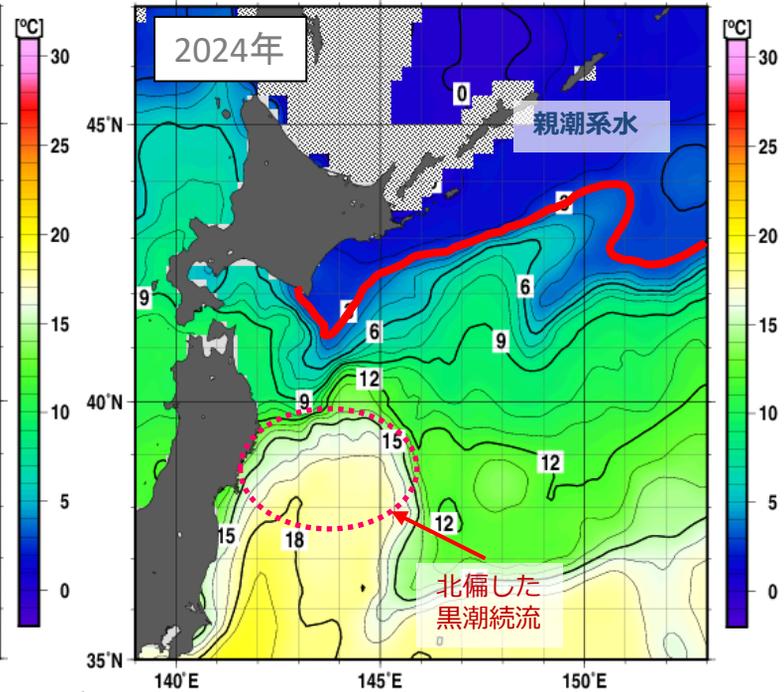
【北海道太平洋における親潮系水の分布状況】

親潮系水は例年冬から春にかけて道東太平洋から噴火湾に流入します。気象庁HPに掲載されている2月上旬の親潮水域における海面水温をみると、3℃以下の親潮系水は2026年は襟裳岬以西の胆振沿岸まで進んでおり（参考図右下）、黒潮続流が北偏していた**2024・25年の同時期**と比べると噴火湾に流入しやすい状況と考えられます。ただし、2月上旬時点の親潮面積は平年よりも狭いことから、今後も噴火湾への流入が継続するかは現時点で不明です。

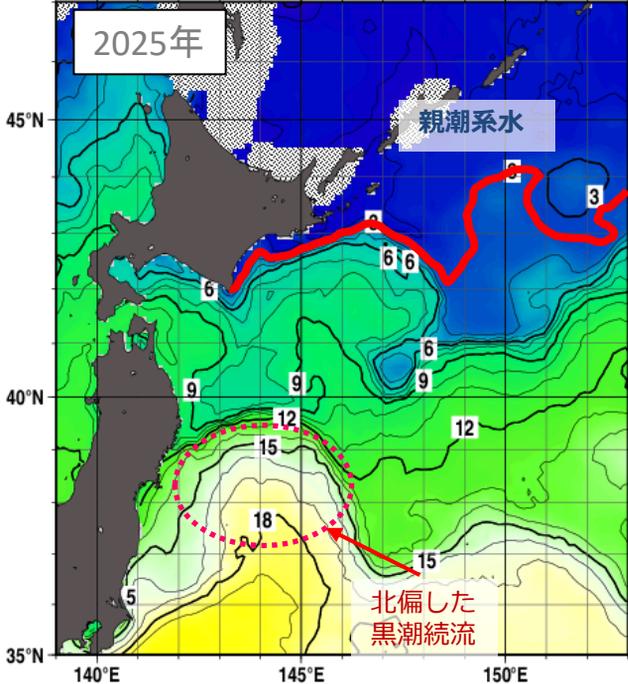
10-day mean SSTs for 01-10 Feb. 2023



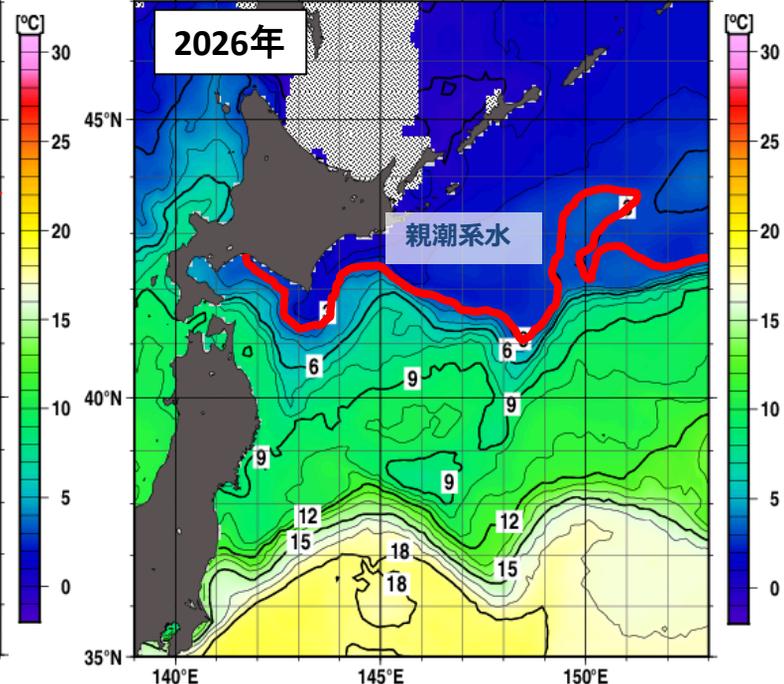
10-day mean SSTs for 01-10 Feb. 2024



10-day mean SSTs for 01-10 Feb. 2025.



10-day mean SSTs for 01-10 Feb. 2026.



参考図 2月上旬の親潮水域における海面水温（気象庁旬平均海面水温を改変）
（左上：2023年，右上：2024年，左下：2025年，右下：2026年，3℃ラインを強調）